

「台湾における日本酒ブーム変遷」

歐 元韻

＜台湾人初の「酒サムライ」誕生！＞

「酒サムライ」という言葉をご存じですか？「酒サムライ」とは、2005年に日本の若手蔵元で組織する日本酒造青年協議会（会長：賀茂泉酒造（株）前垣壽宏氏）が創設し、「酒サムライ3か条」の精神を体現して日本酒と日本文化を愛し、その素晴らしさを世界に広めるために尽力する人々へ、本部が授与する称号です。これまでに様々な分野から90名の方々が選出されました。2020年に選出された5名のうち、台湾からは広島日本酒も代理で販売するマイケル・オー氏と、新潟の地酒を取り扱われているケニー・ヤン氏の2名が叙任されました。お二方とも台湾の日本酒界では有名な代表的人物です。



【酒サムライのマイケル・オー氏(右)とケニー・ヤン氏(左)】

＜3代目 Miss SAKE TAIWAN 発表＞

2月20日にMiss SAKE TAIWANの最終選考会があり見学しました。2019年から始まるこのイベントは、台湾国籍の応募者の中からアンバサダーを選び、台湾国内での日本酒に関する活動を行います。9名の候補者の、日本酒に魅了された理由はそれぞれでしたが、2016年公開のアニメ映画「君の名は。」をきっかけに挙げていたのは、とても印象的でした。選出された3代目のMiss SAKE TAIWANは、今後1年間日本酒を中心に日本文化の魅力を発信するアンバサダーとして活動します。

台湾で日本酒の普及及びPRに力を注いでいる理由はなぜでしょうか。台湾に諸外国から輸入されるお酒は、ワイン類が圧倒的に多いのですが、日本のワインは台湾ではあまり人気がなく、その代わりに日本酒が、比較的台湾の人達の口に合うようです。和食がユネスコ無形文化遺産へ登録されると、日本酒もスポットを浴びる存在として浮上してきました。また、2019年の日本酒輸入関税の40%から20%への緩和で、日本酒業界を取り巻く環境が大きく変化し、その結果、

人材、モノ、業界全体をあげての努力が、台湾の日本酒ブームをただ単なる一過性の流行ではなく、文化として根付かせる動きが定着しつつあります。これは余談ですが、2020年12月現在、国際唎酒（ききざけ）師4,946名のうち、858名は台湾の人達で占められております。そういう私もそのうちの一人です。

＜台湾での日本酒市場の可能性＞

日本酒の海外輸出量は10年前と比較して約2倍、金額にして約3倍の伸びを示しています。主に香港・台湾・中国が、昨年以來、海外での日本酒消費量を牽引しており、2020年1月から11月までの日本からの累計輸出額で見ると、香港は前年比48%の伸びで、約20年来の最大輸出国だった米国をも上回る勢いです。「将来はアジア圏が大きな市場であることは間違いない」と日本酒輸出協会は断言します。ちなみに2020年度の香港向け日本酒輸出額は61億7,800万円、台湾は14億3千万円です。台湾当局が発表した貿易統計資料によりますと、2020年度に日本から輸入された酒類全般（日本酒以外も含む）の輸入総額は日本円で約69億7千万円強でした。

台湾の日本酒を扱う業者は、輸入食品の専門商社と比べ、じっくり腰を据えて熱心に普及活動に取り組みます。時間はかかりますが、取材した台湾国際清酒協会理事長の呉裕隆氏の言葉にあるように「彼らの情熱と日本酒の蔵元との協力体制がうまくかみ合うことが、台湾での日本酒の普及には不可欠だ」ということです。広島蔵元の方々も、台湾で盛り上がる日本酒市場にさらに積極的に取り組んで「広島のお酒で乾杯！」の合言葉がより一層普及していくことを楽しみにしています。



【Miss SAKE TAIWAN 候補者。中央は日本台湾交流協会台北事務所の泉裕泰代表（広島県出身）】
出展元：Miss SAKE TAIWAN 公式サイト